

即日報道用

連絡先： Nan Broadbent (電話：202-256-3955)

Cell 誌が新編集長を任命

マサチューセッツ州ケンブリッジ（2003年10月8日）——世界的に権威のあるサイエンス・ジャーナル Cell 誌は本日、エミリー・マーカス博士を同誌の編集長および Cell Press 社の取締役編集長に任命したと発表しました。この任命は2003年11月1日付で発効となります。

「今回の任命は、編集のあり方についての同氏のビジョンや、科学界に対する開放的かつ積極的な姿勢が、選考委員会の高い評価を受けたとあってよいでしょう」と語るのは、Cell Press 社の社長兼最高経営責任者（CEO）であり、Cell 誌をはじめ他の8つのサイエンス・ジャーナルの発行人を務めるリン・ハーンドン氏。これらのジャーナルには専門家によるピアレビューなどの投稿も含まれます。

マーカス博士は、エール大学で博士号（神経生物学）を取得した後、サルク研究所とカリフォルニア大学サンディエゴ校で発生生物学に関する研究に携わり、その後、2001年2月に Cell Press 社のジャーナル Neuron の編集長に任命されています。

「Cell 誌は、科学界に即効的なインパクトを与える科学記事と持続的な影響を及ぼす科学記事の両方を出版し、その優れた内容で定評を得ています。私は、この名声を礎にして同誌をいっそう飛躍させてゆく所存です。先端分野の画期的な研究を幅広い読者層に購読していただける形式で発表することより、Cell 誌を、様々な分野の研究者の思考を加速させるようなジャーナルにしたいと思っています。こうした分野を超えた思考こそ、最も重要な科学的進歩を生み出す中核となるからです」と、マーカス博士は語っています。

過去30年間に同誌に掲載された記事の中には、受精卵に関する論文の中で細胞死の原因を遺伝子レベルで解析したロバート・ホービッツ博士や、細胞分裂を制御するメカニズムを解明したティモシー・ハント博士の研究など著名な研究も数多くも含まれています。両氏は最近、この研究でノーベル賞を受賞しました。過去9ヵ月間だけをとっても、Cell 誌は、細胞がHIVによる感染に対していかに戦うか、HIVがヒト細胞のこうした防衛メカニズムを打ち破ることのできる理由、胎児幹細胞はどのようにして他のあらゆる種類の細胞を形成するのか、哺乳動物の精子が受精卵をいかにして識別するかなど、多方面の重要分野で画期的な科学進歩の記事を掲載しています。

「Cell 誌に掲載される論文は、時間という試練を乗り越えた恒久的な価値を実証したもののばかりです。そのため、多くの著者がその分野で認識を得ています」と語るのはマーカス博士。

ノーベル賞受賞者エリック・カンデル医学博士によると、マーカス博士は Cell 誌の編集長として適任であると評しています。「マーカス博士の適切な判断力、規範の高さ、そして奥深い人格は、ジャーナル Neuron 誌の発展に大きく貢献しました。Cell 誌の編集長役を勤められる人材は同博士以外に考えられません」。

マーカス博士は、Neuron 誌の編集長として、同誌が取り上げる科学の範疇を拡大したほか、開放的で出入りし易い編集室作り、新しい掲載形式の導入などに寄与したことも知られています。

エルゼビア社の一事業部門として 2004 年に創立 30 周年を迎える Cell Press 社は、Cell 誌のほかに Neuron 誌、Immunity 誌、Molecular Cell 誌、Developmental Cell 誌、Cancer Cell 誌、Current Biology 誌、Chemistry and Biology 誌、Structure 誌の 8 つのジャーナルも発行しています。

###